

道徳教育用教材（小学校高学年用）

# 千葉市に生きる

夢 思いやり チャレンジ



千葉市教育委員会

## はじめに

千葉市では、「夢と思いやりの心を持ち、チャレンジする子ども」を育てることを目標に、いろいろなことに取り組んでいます。

この資料には、皆さんもよく知っている千葉市動物公園や、政令指定都市である千葉市のこと、そしていつも私たちの安全と安心を陰で支えてくださっている地域の方々や千葉市ゆかりの偉人が登場します。

ぜひ皆さんには、道徳の時間の中で、資料に登場する人物の立場や気持ちになり、友だちの考えを聞いて自分の意見を述べ合ったりする中で、これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方・あり方を見つめてほしいと願っています。

また、さらに夢を持ち、思いやりの心や目標に向かってチャレンジする気持ち、心の中に育まれていくことを願っています。

指導課長 小寺 道明

## 目次

1	千葉市動物公園で	2
2	千葉市の発展に込めた願いを 未来へつなぐ	6
3	セーフティウォッチャーさんの笑顔！	10
4	ぼくたちには何ができる 石川倉次さんの点字に出会って	14

## 千葉市動物公園で

健太は動物が大好きです。学校では飼育委員で、動物たちと触れ合うのが楽しくて仕方ありません。

千葉市動物公園で生まれた双子のレッサーパンダを見ることができるようになったと聞いて、健太はふれあいバスポートが使える土曜日に、家族でモノレールに乗って行ってみることにしました。

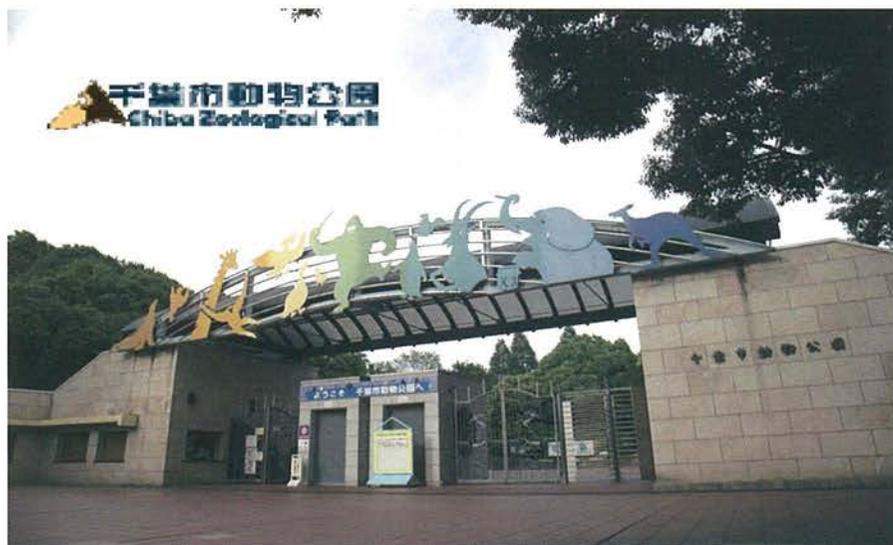
動物公園は家族連れでにぎわっていました。動物を見ている大人も子供たちもみんなにこにこしています。

早速、レッサーパンダの飼育小屋のそばに行くと、近くの掲示板には、以前生まれたレッサーパンダのお別れ式をするというポスターがはってありました。

「せっかく家族が増えたのに、なんで別れなくてはいけないの。」

と、弟が言いました。

健太も不思議に思っていると、飼育員さんが優しく話しかけてくれました。



「このレッサーパンダはね、他の動物園へおむこさんに行くんだ。」

「家族が離れ離れになってしまうの。」

健太の言葉に飼育員さんは話を続けました。

「野生のレッサーパンダはね、かなり数が減っているんだ。このままでは絶滅ぜつめつしてしまうかもしれない。そこで、他の動物園と協力して、レッサーパンダの数が減らないように繁殖はんしよくさせるようにしているんだよ。」

「えっ、レッサーパンダって絶滅してしまうの。」

「レッサーパンダだけではない。この動物公園にいるオランウータンやグレビーシマウマなど、絶滅のおそれがある動物は他にもたくさんいるんだ。」

飼育員さんの話を聞いて、健太は驚きました。

「絶滅しちゃったら、かわいそうだね。」

健太がそういうと、飼育員さんは健太の顔を見ながらこう話してくれました。

「動物が絶滅するということは、わたしたちが動物から学ぶ機会がなくなってしまうことなんだ。」

「動物から学んで・・・？」

飼育員さんはさらに話を続けました。

「動物たちには、わたしたち人間にはない力がある。」

それは、自分たちの力で生きていこうとする力なん



コウタ



エイタ

双子のレッサーパンダ

だ。この動物公園では、それぞれの動物たちがその力を失わないように、野生で生活しているような環境づくりを心がけているんだ。例えば、このレッサーパンダは、どんなところで生活しているか知っているかい。」

竹や笹が主食のレッサーパンダは、やぶや森の中に住むから、それに近い環境を作っているんだ。



「なぜそんな工夫をすと思う。それは、動物たちに会いに来てくれた皆さんに、動物たちに秘められた力とすばらしさに気づいてほしいからだ。この動物公園で生まれ育ってきた動物たちもいるけれど、多くは生まれつき備わっている本能で生活している。動物たちは言葉を話さないよね。動物たちをよく見つめてごらん。動物たちが何を言いたいのか、どんなことを考えているのか、伝わってくるかもしれないよ。」

健太は、飼育員さんの話を聞いて、動物の見方が変わったような気がしてきました。

「人間も地球上では一つの生き物だ。他のさまざまな生物といるに影<sup>たがひ</sup>響し合いながらバランスが保たれているんだ。でも、人間が今、そのバランスをくずし始めているのかもしれないね。」



健太はこれまで、動物はかわいいと思って見ていただけでした。しかし、飼育員さんからの話を聞いて、人間は動物たちとどんなふうに関わっていったらよいのだろうと考え始めました。

千葉市動物公園にいる

絶滅が心配されている動物たち

(この動物たちはほんの一部です)



〈オランウータン〉

現在は、熱帯雨林の伐採や開発により、生息地が減少して、その数を急速に減らしています。



〈グレイビーシマウマ〉

毛皮をとるために古くから乱獲され、生息地の減少などから数が少なくなってきています。



〈モウコノウマ〉

現在、唯一生息している野生の馬ですが、乱獲と生息地の減少によって、野生種は絶滅したと考えられています。ヨーロッパの動物園で増えた個体をモンゴルの保護区に戻すなどして野生復帰をさせています。

☆あなたは、これまで人間と動物の関わりについて考えたことはありませんか。  
☆健太は飼育員さんの話を聞きながら、人間と動物はどう関わっていったらよいと考えているのでしょうか。



## 千葉市の発展に込めた願いを未来へつなぐ

給食の放送が始まりました。

「今日は、『千葉市民の日』をお祝いして、千葉の食材を使った献立です。千葉市でとれたお米、にんじんや大根、ごぼうがたっぷり入った根菜のごま汁、幕張産のにんじんで作ったゼリー、・・・。」

「へえ、今日の献立は、千葉市内の学校がみんな同じなんだって。千葉市では、いろいろな野菜がとれるんだね。」

真佐子のクラスでは、にんじんで作った「ちはなちゃんゼリー」が人気でした。

夕食の時に、今日の給食が話題になりました。おいしかった

「ちはなちゃんゼリー」の話をしたら、5才の妹が、

「ちはなちゃんて何のこと？」

「千葉市のキャラクターだよ。」

「どうして、ちはなちゃんが千葉市のキャラクターになったの。」

そう聞かれて、私は困ってしまいました。すると、お父さんが、

「ちはなちゃんて、オオガハスのよう精なんだよ。花のあふれるまちをつくらうという事業をスタートさせた時に、そのシンボルキャラクターとして作られたんだ。」

「そういえば、オオガハスは、千葉市の花なのよね。平成四年に千葉市は全国で十二番目の政令指定都市に移行したの。そして、六区に分けられ、それぞれの区でもシンボルマークが作られたのよ。真佐子は、自分の区のシンボルマークやそのイメージカラーの意味を知っているの？ いろいろな人の願いや思いがこめられているのよ。」

と、お母さんがお父さんに続けて言いました。





市の鳥（コアジサシ）



市の木（ケヤキ）

真佐子は、答えられませんでした。「自分が住んでいる千葉市なのに、知らないことがたくさんあるな。」

真佐子は、各区のシンボルマークやイメージカラーの意味を調べてみようと思いましたが、

秋休み、祖父母の家にモノレールに乗って遊びに行きました。

「昔はモノレールなんてなかったのよ。出かけるのが便利になったわ。」  
おばあさんが話し始めると、おじいさんも、

「昔とはずいぶん変わったな。国道十四号線まで海だったんだ。のりや貝などもとれるほど、漁業が盛んだったんだ。今では、埋め立てが進んで人工の海になってしまったが、今でも、稲毛の浜は海水浴やつりをする人で、にぎわっているな。」

「千葉市は、いろいろと発展してきているから、自慢できるところがたくさんあるわね。」

おじいさんとおばあさんの話を聞いて私は、「自慢…何かあるかなあ…そうだ、レッサーパンダの風太君で有名な動物公園やコンサートやモーターショーなどのイベントで有名な幕張メッセ…、他にも、自慢できるところがたくさんあるな。」と、思いました。

おじいちゃんが、ぼつりと、

「真佐子が大人になるころには、どんな千葉市になっているのだろうね…。」  
と、遠くのほうをみつめながらつぶやきました。

☆千葉市が自慢できることを考えてみましょう。

☆自分が大人になった時の千葉市について考えてみましょう。  
☆将来に向けて、今、自分ができることは何でしょう。

## 私たちの郷土、千葉市

千葉市は、緑豊かな下総台地の平坦地におおわれ、その一部は、東京湾に接しており、温暖な気候と肥沃な土地、豊かな緑と水辺など自然環境に大変恵まれています。

千葉市は、中央区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区及び美浜区の6区から構成され、その面積は、272.08km<sup>2</sup>です。



千葉市の市章

## 千葉市のあゆみ

千葉市の起源は、縄文時代の初期にその源を発しています。

明治6年(1873年)、木更津、印旛の2県が廃合され千葉県となり、県庁が千葉町に置かれたことにより、県内の政治・経済・文化の中心地、また交通の要衝として発展しました。

大正10年(1921年)1月1日、市制施行により、千葉町から千葉市としてスタートしました。さらに、近隣町村との合併や埋立により、市域を拡大するとともに、快適な生活環境づくり、バランスのとれた都市づくりを進め、平成4年(1992年)4月1日には、全国12番目の政令指定都市に移行しました。

### 《千葉市の年表》

#### [大正]

10年 1月 市制施行により「千葉市」誕生

#### [昭和]

45年 2月 市の花木「キョウチクトウ」に決定

59年 10月 「緑と水辺の都市宣言」を行う

60年 4月 動物公園開園

61年 6月 千葉ポートタワーオープン

62年 4月 青葉の森スポーツプラザオープン

63年 3月 千葉都市モノレール開業

#### [平成]

2年 3月 千葉マリスタジアムオープン

3年 3月 千葉ポートアリーナオープン

4年 4月 全国12番目の政令指定都市としてスタート

13年 4月 区のシンボルマークを制定

15年 4月 「花の都・ちば」事業をスタート

15年 11月 「花の都・ちば」のキャラクターとロゴマークが決定

19年 10月 「Qiball(きぼーる)」オープン



「花のあふれるまちづくり」  
キャラクター  
千葉市の花「オオガハス」の妖精  
「ちはなちゃん」



「Qiball(きぼーる)」

6 区のシンボルマーク & イメージカラー

 <p>中央区</p>	<p><b>うるおいと活気に満ちた文化の香り高いまち 中央区</b></p> <p>中央区の「中」をモチーフに、千葉市の中心としてしっかり軸を据え、区民と行政の協働の営みによってゆるぎない地位が保たれる姿を表しています。“エネルギー・レッド”中央区が政治・経済・文化等様々な面で本市の中核となり、エネルギーで強い原動力と求心力をもつことを願い、千葉市という都市全体の魅力の向上と未来への持続的な発展・繁栄をイメージしています。</p>
 <p>花見川区</p>	<p><b>川と緑の魅力が活きる 心と心の通うまち 花見川区</b></p> <p>花見川区の「花」をモチーフに、花・緑・水の自然にあふれ、未来に向けて躍進する姿を表しています。区名にもなっている花見川の川沿いに、咲き乱れる桜の花や、オオガハスの花をイメージしています。区内で発見された古代ハスの種は、発見者にちなんで「オオガハス」と名づけられ毎年見事な花を咲かせており、その美しいピンク色は花見川区のイメージカラーとなっています。</p>
 <p>稲毛区</p>	<p><b>自然をはぐくみ 皆が交流する 文教のまち 稲毛区</b></p> <p>稲毛区の「い」をモチーフに、芸術とスポーツが重なり、文化の発信地として未来に広がる形を表しています。「ブライト・イエロー」区名の「稲」から稲穂の、実り、結実など、豊かさや、成長を表し、未来への発展をイメージしています。</p>
 <p>若葉区</p>	<p><b>豊かな自然と歴史と文化にはぐくまれた ふれあいのまち 若葉区</b></p> <p>若葉区の英字イニシャルの「W」をモチーフに、貴重な歴史や文化と豊かな自然をイメージし、未来に向かって若葉のようにたくましく成長し、飛翔・発展すること表しています。イメージカラーは、フレッシュ・グリーンです。これは、区名の「若葉」という名称から連想させる色で、泉自然公園、動物公園に代表される多くの公園や市民の森など、緑豊かな自然をイメージしています。</p>
 <p>緑区</p>	<p><b>みずみずしい自然と暖かい心に包まれた次世代に誇れるまち 緑区</b></p> <p>デザインは、緑区の「み」をモチーフに無限大「∞」と飛翔する鳥の姿そして清流に遊ぶホテルから、区民の融和と無限の発展を表しています。色は、区名の「緑」という名称から連想される色で、昭和の森など、雄大な自然とあふれる緑をイメージしています。また、緑区のイメージカラーはエバー・グリーンです。区名の「緑」という名称から連想させる色で、昭和の森など、雄大な自然とあふれる緑をイメージしています。</p>
 <p>美浜区</p>	<p><b>浜辺の魅力と国際性にあふれ安心して暮らせる夢あるまち 美浜区</b></p> <p>海の波をモチーフに、市民の憩いの場である美しい水際線と、国際業務都市としての未来への発展を表しています。【マリンプルー】美しい水際線や、かつて遠浅の海だった場所に誕生した区の過去から未来にわたる海とのつながりをイメージしています。</p>

## セーフティウオッチャーさんの笑顔

六年生の裕樹は、幼なじみの大輔、雄介と三人で、毎日一緒に登下校しています。今日も話に夢中になって、三人は歩道を広がるように歩いていました。すると、

「おいおい！そんなに広がったら、ほかの人が通れないよ。」  
と、セーフティウオッチャーのおじいさんに注意されてしまいました。

近くにいた一年生は笑っていました。ぼくたちは、はずかしくなつて、その場を走って去りました。

「なんだよ。あんなに怒って。頭にくるよな。」

と大輔は言いました。すると雄介も

「そうだよ。」

と、こたえました。

その日の帰り道、歩道に立つセーフティウオッチャーのおじいさんを見かけました。しかし、三人ともおじいさんのそばをそそくさと通り過ぎました。

そんな日が続きました。

しばらくして、裕樹は、セーフティウオッチャーのおじいさんをいつもの歩道で見かけないことに気付きました。一週間たっても、二週間たっても見かけません。



「最近、あのおじいさんがいないから、ほっとするね。」  
と、大輔が言う。雄介も、

「そうだな、これで、話しながら歩けるな。」  
と、ほほえみながら言いました。しかし、裕樹は、おじいさんのことが少し、気になりました。

それから数日後、裕樹が大輔と雄介を家によんで遊んでいた時のことでした。玄関で母が誰かと話しています。裕樹は聞き覚えのある声だったので、そっとのぞいてみました。すると、あのセーフティウオッチャーのおじいさんでした。

「おい、あのおじいさんが来てるよ。」

裕樹は大輔と雄介に小声で伝えました。

「この前のことを言いつけに来たのかな。」

三人はどきどきしながら、耳をすませました。母が、

「最近は、朝、お姿を見かけませんが、どうしたのですか。」

「実は、また腰の調子が悪くなってね。長い時間立っていられないので、しばらく休んでいたんですよ。」

と、おじいさんが話すのが聞こえました。母が、

「それは大変でしたね。その後は、お加減はいかがですか。」

と、聞くとおじいさんは、

「腰痛でね。家族からも、もう歳なんだから、セーフティウオッチャーをやめるように言われているんですよ。腰が痛いのに、雨の日や寒い日に立ちっぱなしでいるのが心配だなんて言うて……。」



「そうですね。無理なさららないで、おやめになったらどうですか。」

「うーん、でもね、前にもやめようかと思って、その話のある子どもにしたら、『私が卒業するまでがんばって。』と、言われたものですから。その子はもう卒業していて、中学生になった今でも、あいさつをしてくれるのがうれしくてね。だから、もうしばらくは、がんばろうと思っているんですよ。」

と、うれしそうに話をしていました。

おじいさんが帰ってから、裕樹は母にたずねました。

「ねえ、お母さん。あのおじいさんのこと知っていたの。」

「ええ、知っているわよ。だって、あのおじいさんはとっても熱心で、雨が降っても、かさもささずにかっぱを着て立っていてくださるのよ。」

「どうして、そんなにがんばれるのかな。」

と、雄介は不思議そうな顔をして言いました。すると、母が、

「そうねえ、どうしてかしらね……。」

母は、ぼくたち三人の顔を見ながら、続けました。

「でも、あのおじいさんだけじゃなく、ほかにもいらっしゃるでしょう。この前、学校に行った時、たくさんのお父さんたちが汗をかきながら、すごく高いところの窓そうじをしてくださっていたわ。」

それを聞いた雄介も、

「弟のクラスには、お母さんたちが毎月、読み聞かせに来てくれている。」

大輔も続けて、

「ぼくたちのクラスには、ミシンの使い方を教えに来てくれたよ。」  
と言いました。

ぼくは学校にボランティアで来てくださっているたくさんの人の姿を  
思い浮かべました。

次の日、朝から雨が降っていました。ぼくたちが、かさをさして歩  
いていると、遠くにあのおじいさんの姿が見えました。久しぶりに見たお  
じいさんは、かっぱを着ていました。こちらを振り向いたおじいさんは、  
大きな声で、

「おう、おはよう。」

と、ぼくたちに手を大きく上げて、明るく声をかけてくれました。

おじいさんの笑顔がぼくたちに、だんだん近づいてきます。

☆久しぶりにおじいさんに会った時、裕樹は、どのような気持ちに  
なつたでしょう。

☆みなさんの学校や地域で活動して下さる方たちに対して、  
これからどのような気持ちで接していくとよいか考えてみましょう。

#### 学校セーフティウォッチャーとは

千葉市教育委員会は「地域の子どもは、地域で守る」を基本  
に平成17年度から学校セーフティウォッチ事業を行っています。  
千葉市の各学校区では、子どもたちの登下校中の安全を確  
保するため、PTA・保護者会やボランティア、青少年育成委  
員会、町会自治会等の多くのボランティアの方々に、巡回や見  
守りの活動をしていただいております。子どもたちが安心し  
て通学できるよう「いつでも、どこか、誰かが、子どもたち  
を見守る」取り組みです。

## ぼくたちには何ができる　く石川倉次さんの点字に出会ってく

ぼくたちの学級では、総合的な学習の時間に「福祉」について勉強しています。同じ班のぼくとのり子さんは、点字について調べることにしました。

担任の吉田先生が、

「中央図書館で点字の体験ができるイベントが、今ちようど行われているわよ。」と、教えてくれました。

そこで、ぼくたちは実際に体験してみたいと思い、次の日曜日、中央図書館に出かけてみることにしました。

千葉市中央図書館では、点字で自分の名前を打つことができます。小さな点の集まりで、ぼくの名前を目の不自由な人にも伝えることができますなんて不思議に思いました。じつと自分の打った点字を見ると、ボランティアさんが、

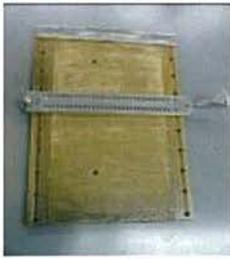
「この点字を考えた人は、石川倉次さんと

いう人で、千葉市の小学校で校長先生を

していた方ですよ。」

と、声をかけてくださいました。

「点字を発明した人が、ぼくたちの街にいたなんて。」



↑点字機

紙をはさんで、点字を打つ。エンピツのような役割がある。

ぼくはとてもうれしくなり、もっと点字について調べてみようと思いました。

参考資料

「石川 倉次」の年表

・一八五九年 今の静岡県浜松市に生まれる。

・一八六九年 家族で千葉県にやってくる。

・一八七五年 小学校の先生になる。

・一八八〇年 浜田小学校（現在の千葉市立幕張

小学校）に、初代の校長として五年

間勤める。

・一八八六年 東京の盲学校の先生になる。

・一八八七年 フランスの点字を知り、日本語の

点字の研究を始める。

・一八九〇年 日本式点字を完成させ、国からも

認められる。これ以降、点字を広め

るために努力を続け、たくさんの方

の賛助を受ける。

・一九四四年 第二次世界大戦の中、八十五歳で

亡くなる。

家に帰ってからは、インターネットで調べてみると、四街道市に点字図書館があることがわかりました。

次の土曜日、ぼくたちは、お母さんに頼んで一緒に点字図書館に出かけました。館内に入ると、右側の棚にはカセットテープ、左側には小さなカウンター、目の前には大きなサイズの本がずらりと並んでいました。

「私たちが知っている図書館とは、ずいぶん様子がちがうね。」  
と、小声で話していると、近くで働いている人がていねいに説明してくれました。

係の人の話によると、点字に訳された本ばかりでなく、朗読を吹き込んだCDやカセットテープも置いてあること、しかし、本やCDなどの貸し借りは郵便を使って行い、視覚障害者が点字図書館を訪れることはあまりないとのことでした。「三階では、点字に訳す作業をしているボランティアさんがいるから話を聞いてみたらどうですか。」

「そうですね、中央図書館で点字を教えてくださいました人もボランティアさんだったなあ。」と、考えながら三階に行くと、笑顔でボランティアさんがぼくたちを待っていてくれました。

「どんなことをやっているのですか。」と、尋ねると、

「今は点字で打ったものが本の内容と合っているかどうか、確認をする手伝いをしているところよ。皆さんは、ここで何を調べたいのかしら。」

「なぜ、ここで、ボランティアをするようになったのですか。」

と、真剣な顔をしながら聞きました。

「私がボランティアを始めたきっかけは、仲の良い友達が病気のせいで目が見えなくなってきたからなの。一人で外出できないので私が付き添うようになり、視覚



CDと再生機  
読み聞かせを聞くことができる

障害者の集まりなどに参加したわ。いろいろな人と交流していくうちに自然に点字というものに興味がわいて、自分もやってみたくなり勉強するようになったの。気がつくのと、へしてあげている」という気持ちではなくて、へ参加している」という気持ちになっていた。そして、それから、彼女とは別に一人でもいろいろな場所へ行き、覚えた点字でお手伝いをするようになっていたの。今では、点字の本ができ上がったたり、そこでいろいろな人と出会えたりすることが楽しくてね。」

と、温かいまなざしで話してくれました。

「ボランティアって、何か特別な思いや考えを持った人達が、がんばってやるものだと思うんだけど。」

のり子さんの言葉に、ぼくもうなずきながら、ボランティアさんの話を聞いていました。今のぼくたちにもできることはないか、高学年としてもっと身の回りのことから考えていこうと思いました。

☆ さまざまなところで活動しているボランティアさんは、どんな気持ちで活動が続けていますか。皆さんの身近にいらっしゃるボランティアさんの気持ちや活動に目を向けてみましょう。

☆ 高学年として、学校の中で、自分にもできる、またはこれからやってみたい活動がありますか。

< 参考資料 >

- ・「石川倉次物語—日本点字の創始者—」 永嶋まつ子
- ・千葉市ホームページ
- ・千葉市動物公園ホームページ

指導される先生方へ

本資料の活用にあたっては、本市のイントラネット「Cabinet」に指導略案がありますのでご活用下さい。

「道徳教育用教材（小学校高学年用）・千葉市に生きる」作成委員

●学識経験者

植草学園大学 教授	西村 正司
千葉市立鶴沢小学校 前校長	
植草学園大学・千葉大学 非常勤講師	黒岩 絹子

●委員長

千葉市立千城台旭小学校長	塚本 充
--------------	------

●委員

千葉市立こてはし台小学校	石川 真沙子
千葉市立花園小学校	岡田 直美
千葉市立幕張小学校	笠井 千尋
千葉市立瑞穂小学校	川島 恵子
千葉市立幸町第四小学校	川村 陽平
千葉市立大森小学校	佐藤 晃代
千葉市立真砂第一小学校	佐藤 綾子
千葉市立みつわ台北小学校	高梨 宏光
千葉市立桜木小学校	多田 幸城
千葉市立高浜第二小学校	長谷川早由里
千葉市立園生小学校	三輪 明子
千葉市立鶴沢小学校	森 美香

●千葉市教育委員会事務局

指導課長	小寺 道明
指導課主幹	沼倉 徹
指導課主任指導主事	石野 高弘

平成23年3月

編集者 千葉市教育委員会

印刷者 株式会社ハシダテ

発行者 千葉市教育委員会

千葉市中央区問屋町1-35